

の難點であつた。がソーン氏はこれを旨く融和した、さいふのは先づ塀を道路に面して巡らし、その奥に堅固要心したる銀行の建物を造つた、だから外見上決して堅牢のみを表したるが如き牢獄然たる殺氣は毫末も止めず、寧ろ優雅なる建築の如くみせかけた。これはソーン氏の果斷として嘆賞すべきである、またこれを賛成した首腦當事者の卓見をも推察出来るのである。

特徴の第二は

ソーン氏は伊太利に於てGREEK、ローマの古代建築に深い研究を拂つた。そして英蘭銀行にはGREEKスタイルを用ひたのであるこれはGREEK建築風の持つ着實さご雅麗さが、英國々民性の所謂紳士道即ち眞摯にして横やかなる美しさごの共通性を觀破してこのスタイルを用ひたのであつた、即ちよくソーン氏は民族性を理解する優れたる識見があつたのである。

要するに、單に堅牢鐵の如くさいふのみならば誰にでも出来る、然しそれではたゞ牢獄の如き感を與へるのみである、市の美觀を傷けず、人々の藝術的感慨を不快ならしめず、共に協調を保ち、寧ろそれぞれに美的要素を與へる、さいふここに就て考へ及ぼす時は、たゞにソーン氏の手腕才能を賞するのみでなくその識見の卓越に敬意を拂ふべく、その苦心に對しても吾々は頭が自然に下るのを禁じ得ないのである。

ソーン氏は天才であつた、けれどもこの天才は決して偶然ではない、天才をして天才たらしむるものはやはりそれだけの苦心研鑽を要する。ソーン氏は實に苦心慘憺した。その銀行の入口の設計のみでも驚異すべき苦心をした、設計の稿を書いては破り破つては書き稿を更めるご實に數十回に及んださいふごである、この一事をみても氏が如何に畢生の苦心をしたか察するに余りあるであらう。

人々はたゞ出來上つた物に對してのみ敬意を表し賞讃をする、けれどもこの裡に潜むごころの苦心に至つては余りに無關心である。

ソーン氏はまた後輩のため、學界のため、延いては國家社會のために、著書を表し、標本を残したのであつた。而して氏の死後、それを蒐めて『ソーン博物館』を設立された位である。氏はまた遺言して、その遺言のうちから英國の建築學會に莫大な寄附をして、年々優秀なる學徒には賞を與へるごを以てした、これは後世『ソーン賞牌』と稱せられてゐる。

英蘭銀行は近頃狹隘を感じ、擴張改良工事建築せられつゝある、だが英國々民はソーンの建築の世に無くなるを憂へて、これを殘存さすべき團體運動まで開始せられたさいふそこで當事者もまたこれを惜しみ、ソーン氏の遺蹟を尊重し殘存せしめる改築を考察した、即ちソーン氏の苦心になる塀をそのまゝ残して内部だけを改築するごに決したのである因みにこの工費は五百萬磅邦貨約五千萬圓である。

かくの如くソーン氏の偉業は後世に誦はれてゐる、然しながら、その裡に潜む氏の苦心は忘れてならぬものである、世人はたゞその残されたる物に對する價值のみを評するが。

東京の大建築一坪當り幾ら

	延坪	一坪當り 單位圓	完成年度
海上ビル	6,000	284.	大正六年
第一相互生命	3,278	400.	同 十年
三菱銀行	2,926	1,400.	同十一年
日本石油	4,597	973.	同十一年
丸ビル	17,857	600.	同十一年
銀座ビル	5,844	600.	同十四年
日本青年館		450.	同十四年
中央電信局	4,047	522.	同十五年